いつも「とおかまち」を胸に

応援しています。私の故郷

市制施行10周年に寄せて

「市制施行10周年記念誌発行にあたり、首都圏在住の十日町出身者で構成する各郷人会を代表して、3人の会長から故郷に寄せるメッセージをいただきました。」

確実に育っていた合併の効果

東京十日町会長 春日 寛さん

合併の効果はこんなことにもあります。

今年7月開催された東京新潟県人会納涼まつりの企画段階でのこと。各地域から物産販売のコーナーを出そうと決まりました。

私は早速「十日町」が参加すると手を挙げました。恥ずかしいことにそのとき私の認識としては「十日町」の概念には合併前の「十日町市」のことしかありませんでした。

ところが、居合わせた松之山会、松代会の各会長さんが「うちのところはしんこ餅で」、「うちのところはあんぶで」と私の声に賛同してきました。このお2人の会長の「十日町」という認識は、旧「十日町市」ではなく合併後の新「十日町市」になっていたのです。

この十日町勢の物産販売は瞬く間に売り切れました。合併の良さは確実に育っていたと確信した出来事でした。

鮮やかな緑のふるさと

東京松代会会長 小堺 一男さん

大地の芸術祭開始の前日、テレビ朝日の「旅サラダ」で「ここに来ると緑が濃いんですよネ」と歌手の秋川雅史の一言。

豊かな植物群、信濃川と山々、雪の多さ、歴史ある着物、寒暖の差が育てた美味しい米と野菜、やさしい人情味など、転勤族が実感した十日町市の財産です。

常住人口の増加が望めないなら、例えば、十日町市の良さを四季にわたり体験できる新しいツアーを開発し、国内の若年層や外国人のファンを作り、リピーターを増やすことが考えられます。

その延長線上に、外国人のための農業などの技術専門学校を作りたいものです。

もう一つの夢は、外国人に人気のある和服の販売増とともに、和服の生地・模様を洋服に取り入れたものを開発したいものです。

大飛躍の10年間

東京松之山会会長 村山 富雄さん

市制施行10周年を迎えられた事、心からお喜び申し上げます。

これまでの10年は大飛躍の10年間だったと思います。私も故郷を離れて50年以上は経ちます。平成の大合併の事はあまり分かりませんが、松之山地方の皆様は十日町市に合併するまでにかなりの時間がかかった様に聞いております。

今になれば行政におかれましても、何かにおいても大変良かった事と思われます。

これからの10年もますます飛躍の年になります様、十日町市の応援団と致しましては、出来る限りの応援とご協力をさせていただきます。益々の飛躍を心よりお祈りいたします。